社說

外交は如何

行政改革の調査は一段落を告げて不日發表の運びに至るよし如何なる結果を見る可きや世人の刮目して待つ所ならんなれども其結果は孰れにしても單に國內に向て當局者の腕前如何を示すに過ぎず我輩の敢て重きを置かざる所なれども爰に大に問はざる可らざるは外交の一事なり此一段に至れば我輩は眼中藩閥もなく政黨もなく只日本國の外交を見るのみにして若しも政府の處置に宜しきを得ざる所あらんには寸毫も假さずして飽くまでも其責任を問はんと欲するものなり思ふに我外交の局面は近來ますます多事にして支那朝鮮の外に更らにフヰリツピンの始末あり露國の平和協商說の如き其眞意は何れの邊に存するか又英獨同盟の風說の如き果して眞實ならんには世界の形勢一變の端を開くものなり一片の電文に就て想像を逞うし皮相の說を爲すが如き我輩の敢てせざる所なれども形勢の急變は即ち外交の多事を示すものにして我國の如き此際に立て自から計る可きもの甚だ多からざるを得ず外交當局者の大に力を用ふるの時機なる可し政府が目下の外交に處するの方針果して如何、或は今や新政府の組織匆々內事正に多端、先づ內を始末して外に向ふ可しなどの說あるは畢竟當局者が昨今內事にのみ汲々たるを見て斯くては外交の掛引など虛々實々微妙の魂膽に心を用ふるの暇はある可らず早く內を片付て外に取掛る可しとの意味ならなれども抑も外交は國家の大事、然かも時々刻々變動止まざるものにして其機務は片時も曠廢す可きに非ず政府如何に內事に忙はしきも當局の責任は必ず空うせざることならん我輩の信じて疑はざる所にして思ふに當局者には自から見る所あり又實際に拔目なく運動しつゝあることならん其一段に至りては所謂變外の機密にして局外者の知るを要せざる所なれども然れども目下の有樣を見れば政府は實際內に忙はしくして外に向ふの暇なきの觀なきに非ず當局者如何に大言壯語して外交の事、容易のみ細工は粒々仕上げを見る可しなど獨り自から誇るも實際に其伎倆を示すに非ざれば一般人の信用は得べからず否な假令ひ種々の仕上げを期するも其細工の道具さへも備はらずとありては外務に不安心の念なきを得ず一時噂ありし外務大臣專任の問題も議論の末、兼任と決して再議の模樣なしと云ふ甚だ好し當局者の近狀を聞けば昨今甚だ多忙の模樣にて[illegible]人などゝの會見は頗る稀れなるが如しと云ふ畢竟行政改革など內事に忙はしき[illegible]外交の方[illegible]行はれつゝあることならん其[illegible]任は敢て差支なしとするも更らに在外公使の動靜は如何と云ふに目下我國の外交に關係の最も大なるは先づ英露米及び支那の四箇國に指を屈せざるを得ず然るに英露駐在の公使は經驗と云ひ伎倆と云ひ共に其人を得て先づ安心なれども米國は星公使が過般歸朝して辭職の決心確なるよしなるに未だ後任者の任命を見ず又支那矢野公使の歸朝も一時の賜暇とは云ひながら是れ亦急に歸任の樣子もなきが如しと云ふ米國には目下正にフヰリツピンの始末に關する大問題あり支那に至りては關係の重大なる今更ら云ふまでもなし共に大に外交の手腕を要す可き場所なるに其事に當る可き公使は孰れも歸朝して任所に在らずと云ふ實際に差支なきや否や當局者に自から成算ありと云ふも苟も三面六臂の人間に非ざる限りは一身以て四方八面に應接するが如き決して望む可らず在外公使は即ち外交上に缺く可らざるの機關にこそあれば米淸駐在の公使の如き速に歸任を命ずるか然らざれば直に後任者を派遣す可し其人選に就ては一切政黨の情實を容れず外交上の伎倆と經驗とを標準として廣く人物を求む可きのみ局外より見れば外交の當局者は內事に忙はしくして外事を見ること稀れなる其上に最も必要なる在外の公使さへも其任地に在らずして乃公獨り大得意と爲りて成算我に在りと稱するも誰れか之を信ずるものあらんや國內の人民これを信ぜざるは尙ほ可なれども若しも此邊にして外國人の不信用を招くにも至らば國の外交上に容易ならざる關係を見る可し當局者の伎倆如何は其人の腕前限りにして如何ともす可らずと雖も既に其地位に當りたる上は自から責任の實を盡して內外に對して信用を失はざるの心掛なかる可らず我輩の敢て希望する所なり

○藩閥政府（二十）

三菱征伐

後藤と板垣の雁行は頗る突然にして自由黨の內部にも其事情を知れるものは古澤滋等の外兩三輩に過ぎざりしといふ然るに政府は此頃より深く自由黨の內幕を見透して其根據の甚だ薄弱なるを認め得たるのみならず自由黨も亦一方に改進黨の興りて自己の黨派と競爭の色あるを見たれば心中甚だ不快に堪へず殊に改進黨創立の當時には都鄙の金穴意外にも多數に加入したりし爲め根抵甚だ豐かにして黨員の人物も亦其當時の粹を集めたるが故に社會の氣受け惡しからざるを以て自由黨末派の輩は之を見る每に常に憤懣の念あるのみか土州人即ち黨中の中堅に居る連中は由來先天的に大隈を憎み改進黨を憎めり其根源は大隈が[illegible]と云ふに就て土州人も[illegible]を保持せると共に三[illegible]政府の[illegible]ある爲めにして其保護は又大隈の媒介周旋に依りしものなるが故岩崎彌太郎は大隈の恩に感じ遂には相結託して大隈に天下を取らしむる爲め兵糧方を引受けたる可しといふ想像に過ぎずと雖も此風說は唯り自由黨のみならず政府の筋にても大隈を傷けん爲め明らさまに吹聽したる事屢にして土州人等の心中には燒餅半分大隈よりは寧ろ三菱に向つて不快の念慮を抱きしものも甚だ多し去れば大隈を窘め三菱を疎外せんとするの希望は政府も自由黨も之を同くし殊に明治十三四年來一時流行せし社會平等論は頗る壯士輩の意思を驅りて暴富家の征伐に向けしめたれば社會に無事の日到來すれば早晚一度は三菱も攻擊を受く可しとは世人も待ち設けたるところなりしに果せるかな板垣歐行の留守に於て其頃自由黨中の策士として評判せられし古澤滋は盛に三菱攻擊を始め其機關新聞を以て從橫に論じ出したり是に於てか天下の壯士は皆之を快とすると同時に政府の內部には三菱保護金廢止論起りて農商務大輔品川彌二郎小室信夫等頗る奔走し明治十六年遂に共同運輸會社を設立せり是れ大方は皆井上の策にして是より先き藩閥政府の起るや各藩共に其財政に就ては頗る困却し明治元年奧羽の征伐には薩摩、長州皆贋金を使用し始めたれば各藩ともに之に習ふて一時天下は贋金の世界と爲り會津其外敵方に於ても同じく之を發行するに至りたれども亂平ぐの後各藩ともに皆自首して無罪放免と爲り九州の黑田と移封後の會津藩のみが犧牲に上りて事濟みと決定したる爲め一時の混雜は片附きたれども其後廢藩と爲りて世祿を奪はれ華士族ともに根據甚だ薄弱なるに至りては又昔日の富を思ふて漸く貨殖の必要を感じたるもの少からず其中にも長州、薩州は發頭人だけに着眼も早くして薩の五代才助、長の山城屋和助等は夙に身を商海に投じて爲す所あらんとしたれども算盤にて富を起さんとするは鐵砲玉にて天下を取るほど容易ならず五代は大枚の借財を政府に遺して死し山城屋は町人に似合はず武士氣質を出して切腹し殆んど兩藩ともに金穴の建立は水泡に歸したるに當り獨り政治上の失敗者たる土州の幕下に三菱の起りたるは偶然にして其土州より起りし三菱が却て鄕黨を助けずして大隈と結託すると聞かば土州の壯士が忿懣するも當然なる可し又藩閥黨に於ては五代も山城屋も失敗したれども茲に山城屋の繼嗣者にして井上の幕下たる藤田傳三郎なるものあり曾て井上が政治上に失敗して大阪に商社を起したる時其幕僚と爲りしものにして一時は井上と共に薩人より猜みを受け川路利良は東京の警視廳より探偵を派遣して明治十二年頃主人藤田を中野梧一を始め手代一同を捕縛し[illegible]して罪に陷れんとしたる事あり是れ有名なる贋札一件にして結局は無罪と爲りし[illegible]他人を賴むは其資性にして井上と大隈とは殊に其注目を免かれざりしものなり去れば井上には斯の如き因緣に依りて幾分か商人の思想あるのみならず大藏省在職中莫逆の交りを爲したる澁澤榮一も退職後は商海に身を投じて頗る社會に重きを置かれ其友人益田孝等と共に屢々井上と會合して消息絕えざりしが故に福地等をして帝政黨を組織せしめんとするや一時は是等の關係者が一同其兵糧方を承諾する筈なりしといふ然るに帝政黨は內部に反對ありて面白からず遂に中止するに決したれば更らに是輩を集めて三菱征伐を企て並に大隈を叩き倒して薩閥、武人黨及び自由黨の人望を博せんと欲したり是れ井上が前後に比なき人望時代にして首尾能く成功すれば三菱會社は此時根抵より拔き去らるゝや知れざりしに案外にも岩崎の身代豐饒にして競爭は僅か三年にして共同運輸會社の失敗と爲り三菱も亦其航海業を廢止して明治十年新郵船會社を組織するに決せり然しながら之に依りて我國の航業權を一個人の手より株式會社に移したるの功は實に井上に歸せざるを得ず

○黑田長成侯の研究會談

余の研究會に入りたる理由に就き新聞紙上に余の談話として傳ふるもの或點に於て余の本意にあらざる廉あるは遺憾の事にして殊に現內閣に對し惡感情を抱く者が余の入會を見て奇貨居くべしとなし恰かも余を以て新に現內閣反對の旗幟を樹てたるものとなすが如き形跡あるは余の最も迷惑とする所なり抑も余は現內閣の組織せらるゝを見て無論政治上の一進步となすものなり固より政黨內閣初生の際なれば敢て直ちに其完全無缺ならんことの望を屬するものにあらざれども將來漸を追ふて完全なる政黨內閣と發達せんことを期すれば現內閣を以て其濫觴と認め此際現內閣施政の方針に對し妄らに妨害を加へ其更迭を促さんとするが如き考は毛頭之なく寧ろ能ふべくんば現內閣の基礎如何程薄弱なりとするも責めて一年か一年半なりと其命脈を保たしめ政黨內閣としての伎倆を振はしめんことを切望するものなり余の現內閣に對し此の如き好意を有するにも拘らず現內閣に反對すべしと世人に思惟さるゝ研究會に入りたるに就ては余の擧動怪むべきが如しと雖も余は敢て余の心意と矛盾せる行爲をなす者にあらず余は前述の如く今日敢て現內閣に反對の政見を持するものにあらずと雖も現內閣の議會に於ける勢力絕對的に優勢にして之と對峙すべき政黨なきときは他日惰るべき弊害の生ぜんことを憂ふるものなり即ち帝國議會をして全く現內閣の奴隸たらしめ現內閣の政策に對し帝國議會は無制限に服從せざるを得ざるの境遇に立つときは現內閣も或は人情の弱點として我を恃むの餘り知らず〳〵不義に陷ることなしと云ふべからず是れ余の竊かに慮る所なるが故に余

は帝國議會中
なる一團體を
となし現內閣
得るもしあ
監督者は現在
に求むべから
らず然るに當
も最も鞏固な
行掛上現內
きが如きも
頗る公平の
に於て余の
すれば余の
貴族院議員として
を決して入
甚だ世人に
したる所に
忠臣たりし
閣に對する
ものなり尤
者あるやも
味は右の如
にあらず余
貨となるを

○西班

米國フヲラデ
政府の設計
て推究した
牙の人口千八
に達する由
百十九人を
百六人は女
るもの最も
二百一人女
の教育なき
人、內三百
す學校生徒
二十人、
萬四千六百
具はらざる
其教育高尙
する國民の
百五十七人
師男三萬四
のもの男千
千四百九十
婢三十一萬
百七十九人
萬二千二百
人なりと云

○還御の

內親王殿下
鳳に依り塔
川に架した
たると分り